

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスそらがはれ			
○保護者評価実施期間	7年 9月 1日		～	8年 8月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	4
○従業者評価実施期間	7年 9月 1日		～	8年 8月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	8年 9月 5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・働いている職員はとても個性豊かで個々の能力が高く子どもとの関わり方も上手 ・言語面で個別で療育を受ける機会を設けられている ・小部屋が複数あるので苦手な刺激や自分物から離れられる ・室内にブランコ、ボルダリングがあり身体を動かす事ができる ・社会活動に力を入れているので外出の機会を多く取り入れ、普段出来ないことや経験したことない事を提供している。	職員それぞれの個性や得意分野を活かし、子ども一人ひとりの特性や気持ちに寄り添った支援を行っている。また、言語面で支援が必要な子どもには個別療育の機会を設けている。 小部屋を複数設置し、苦手な刺激から離れて落ち着いて過ごせる環境を整えるとともに、ブランコやボルダリングなど、身体を動かして楽しめる環境づくりにも取り組んでいる。さらに、社会体験活動に力を入れ、積極的に外出の機会を設けることで、普段の生活では経験しにくいことや初めての体験を通して、子どもたちの経験の幅を広げている。	職員それぞれの専門性や得意分野を共有し、職員間で支援方法を学び合うことで、支援の質の向上を図る。言語面の個別療育については、一人ひとりの発達や課題に応じて支援内容を見直し、さらなる充実に努める。また、子どもの特性や状態に合わせた環境設定を継続し、安心して過ごせる居場所づくりを進める。運動活動や社会体験活動についても、子どもの発達段階や興味に合わせて内容を工夫し、身体機能の向上、社会性の育成、他者との関わりや公共の場でのルールを学ぶ機会をさらに充実させていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・一部屋が小さく集団で利用する時には狭い ・部屋数がたくさんあるが職員の目が行き届かない ・PCなどの整頓がされず出しっぱなしになってる ・屋外の環境整備が不十分で決められた職員が率先して行なっている ・職員間の関係性、馴れ合いではなく仕事とプライベートを意識する ・研修の受講を率先して受講できていない、特性の理解を深める ・職員数が少なくなり補充が必要	集団活動を行う部屋が狭く、利用児童が多い場合には十分な活動スペースの確保が難しい。また、部屋数が多いことで職員の目が行き届きにくい場面がある。PCなどの備品が使用後に整理整頓されず、出しっぱなしになっていることがある。 屋外の環境整備が十分ではなく、一部の職員に負担が偏っている。職員間では、仕事とプライベートの区別や適切な距離感を意識する必要がある。研修への自主的な参加が十分ではなく、子どもの特性や支援方法に関する理解を深める機会が不足している。また、職員数が減少しており、安定した支援体制を維持するための人員補充が課題となっている。	集団活動時の部屋の使い方や人数配置を工夫し、安全で十分な活動スペースを確保する。また、各部屋の担当や見守り体制を明確にし、職員間で児童の所在や状況を共有する。PCなどの備品は使用後に所定の場所へ戻すことを徹底し、整理整頓のルールを設ける。屋外の環境整備については、担当者任せにせず、職員全体で役割分担を行い、定期的に点検・整備する。職員間では、適切な言葉遣いや距離感を意識し、仕事とプライベートを区別した関係づくりを進める。研修への参加を促し、障害特性や個々の児童に応じた支援方法について学ぶ機会を増やす。さらに、求人活動を継続して人員の補充を進め、職員の負担軽減と安定した支援体制の確保を目指す。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和8年9月5日				
事業所名		児童デイサービスそらがはれ				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3	3		一部屋が小さいので複数の部屋で遊ぶ、活動を行うなどを考えたい
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	3	求人やSNSで募集は出してる。また待遇面でも以前よりも改善している	募集をかけるとともにSNSなどを活用して事業所の紹介を行なっていく
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	4	カメラを導入し死角をすくなくしている	整理整頓を行い、職員が配置に意を配り職員が見えない場所をなくす。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	3	毎日児童が帰った後は整理整頓、掃除を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	部屋数が多いので個別での環境は提供できている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4	2		職員会議で共有しているが不十分な事があるので重ねて意識する必要がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3	気軽に連絡が取れるようにSNSを活用し現代に合わせた連絡ツールを用いている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1		十分に意見を吸い上げることができていない
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	4		現段階ではできていない
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		現段階では学びが少ない	動画での回覧を行い隙間時間で知識が得られるように更に改善する
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	3		細部まで公表するに至っていない。5領域やイベントなどは事前に伝えられている
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	1		どうしても子どもよりも保護者の意見が中心となってしまう
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4	2	職員会議で話し合う機会は設けられている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	2		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2	hugを使い一歩化している	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	1		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	3		その日に中心となる職員に任せる事が多いので内容をあらかじめ決めていきたい
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	1		個別療育は言語が中心のため他の領域でも実践していきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後は時間がないので翌日の朝に情報共有や意見を伝える	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	1		記録の取り方が統一されていないので主観が入る事が多い
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	1		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		勤務を調整し可能な限り参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	件数としては少ないが保護者の希望を元に相互で理解を深められるように話し合いを行ってきた	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	3		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	3	3		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	2	4		十分に説明できていない事がある。SNSや公式ラインでは伝えるようにはしている。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		十分に考えてプランや療育内容を考えている	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	1		

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	1	5		時間が許す限り行なっているが十分ではない
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5	1	SNSで情報を発信し日々の様子が伝わりやすいように努力している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	1		PCの出しっぱなしや机の上にもものがある場合もある整頓したい
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	1		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		6		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	2		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	2		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1		医師の指示が支援者に伝わる機会がほとんどないので機会があれば保護者に聞いてもらい教えてもらう
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	2		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		作成し周知できている	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	1		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	1		

保護者等向け 児童発達支援評価表

公表日：2026年9月19日

事業所名：児童発達支援 児童デイサービスそらがはれ

対象人数(保護者)5人 回答者数 4人 回収 80%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	4			
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。		1		3
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2			2
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	3			1
適切な 支援の 提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	3			1
	⑥	事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	4			
	⑦	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。	4			
	⑧	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	4			
	⑨	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	4			
	⑩	事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	4			
	⑪	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2		1	1
保護者 への 説明等	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	4			
	⑬	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	4			
	⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。			1	3
	⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	4			
	⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2	2		
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3	1		
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。			2	2
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1	1		2
	⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	3	1		
	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	4			
非常時 等の 対応	㉒	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	3			1
	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	1			3
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。				4
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1	1		2
満足 度	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2			2
	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	4			
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	4			
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	4			

※1「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をするのがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3「児童発達支援計画(個別支援計画)」は、児童発達支援を利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。

保護者等向け 放課後等デイサービス評価表

公表日：2026年9月19日

事業所名：放課後等デイサービス 児童デイサービスそらがはれ

対象人数(保護者)16人 回答者数 8人 回収 50%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない
環境・ 体制整備	①	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5	1		2
	②	職員の配置数は適切であると思いますか。	6			2
	③	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境(※1)になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7			1
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7			1
適切な 支援の 提供	⑤	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7			1
	⑥	事業所が公表している支援プログラム(※2)は、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7			1
	⑦	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画(個別支援計画)(※3)が作成されていると思いますか。	7			1
	⑧	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7			1
	⑨	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8			
	⑩	事業所の活動プログラム(※4)が固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8			
	⑪	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	4	1		3
保護者 への 説明等	⑫	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8			
	⑬	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8			
	⑭	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング(※5)等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4		1	3
	⑮	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	7			1
	⑯	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6	2		
	⑰	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8			
	⑱	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2		3	3
	⑲	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7			1
	⑳	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7			1
	㉑	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	8			
	㉒	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7	1		
非常時 等の 対応	㉓	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	1		2
	㉔	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	1		1
	㉕	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7	1		
	㉖	事故等(怪我等を含む。)が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	1		1
満足 度	㉗	こどもは安心感をもって通所していますか。	7	1		
	㉘	こどもは通所を楽しみにしていますか。	8			
	㉙	事業所の支援に満足していますか。	7			1

※1「本人にわかりやすく構造化された環境」とは、こども本人がこの部屋で何をするのがわかりやすいよう、机や本棚の配置などを工夫することです。

※2「支援プログラム」とは、事業所における総合的な支援の推進と事業所が提供する支援の見える化を図るため、事業所で行われている取組等について示し、公表することが求められています。

※3「放課後等デイサービス計画(個別支援計画)」は、放課後等デイサービスを利用する個々のこどもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援方針や支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成し、保護者等への説明を行うとともに同意を得ることが義務付けられているものです。

※4「活動プログラム」は、事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。こどもの発達の状況や障害の特性等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

※5「ペアレント・トレーニング」は、保護者がこどもの障害の特性やその特性を踏まえたこどもへの関わり方を学ぶことにより、こどもの行動変容することを目標とします。